

山内支えあいたい通信

令和2年9月15日 第4号 発行/さんない生活支えあいたい

今、新型コロナウイルスによって人々の心の中に不安が生じ「つながり」が断されようとしています。

確かにこれまで通りにはいかないかもしれませんが、助け合ってきたことが途切れることなく続いていくように少しずつでもできることから始めていきましょう。

「さんない生活支えあいたい」構成員

地域支えあい推進員 高橋 弘子(茂竹)	地域支えあい推進員 高橋 志保子(平石)	(皿木) 中村 正子	(軽井沢1区) 黒沢 義春	(軽井沢1区) 高橋 弥左工門
(下駅前) 佐藤 由美子	(南相野々2区) 土場 祐子	(下平野沢2班) 高橋 良一	(吉谷地) 土谷 久男	(下松川) 松本 賢孝
(上小松川) 高橋 秋子	(下黒沢) 鎌田 悦子	(上筏) 照井 克美	(下南郷) 高橋 長一	(三又) 高橋 幸村

ゆっくりあわてず再開しています

地域での様々な行事や交流は、住み慣れた地域で元気に楽しく暮らすための「地域の宝物」です。新型コロナウイルス感染症に気をつけながら少しずつ活動を再開させている地区をご紹介します。

吉谷地地区：へき地診療所での診察後のお茶飲みの会

吉谷地地区は住宅が5軒で住民は13名の小さな自治区です。以前はミニデイに参加していましたが、それも無くなり、集いの場を失ってしまいました。

そんな時月2回へき地診療所が14時から開設され、3～5人位の住民が訪れて、簡単な診療と血圧を測ってもらったり、いつも飲んでいる薬をもらったりしています。

世話人の藤原京子さんから「診療が終わってから皆でお茶飲みをすることはどうか？ボケ防止になるし、家に日中は一人しかいないので、集まってお茶飲みながら話しっこしよう」との提案があり、今では毎回集まっているようです。「遠くには行けないが、診療所は近いので楽しい」と言う人や「時折集まって、アブや、畑にイノシシや、クマの事など地域の情報交換ができるし、なにより楽しく笑うことが一番の薬だから」等**まめな**人たちです。

戦中戦後を精一杯生き抜いてきた先輩たちの言葉には人生の重みを感じます。

これからも まめで 長生き してけれな～。



【支えあいたい構成員：上平野沢地区 土谷久男】

武道地区：武道集落会

武道地区は、住宅16軒、住民は39名の吉谷地地区よりはちょっと大きい自治区です。毎月第一、第三木曜日に10時からお昼位まで、会館で集いの場を開催しています。世話人は、上平野沢地区老人クラブ会長で、今年の常会長さんの藤原公開さんです。一週目は体を動かす「健康の駅」にして軽い体操などを行い、終了後はお茶っこ飲みをしています。

三週目は、お茶っこを飲みながら昔の話だったり、畑の進み具合など、雑談で楽しんでいます。

参加者は9～10名の高齢女性が多いが、男性もこの頃は参加するようになってきました。

活動費は、地区から10,000円/年を頂いて活動の経費に充当しています。

今年はコロナの関係で開催出来ていませんでしたが、7月から久しぶりに行っています。皆さん元気で良かったです。

これからも まめで 長生き してけれな～。

【支えあいたい構成員：上平野沢地区 土谷久男】



ほっとパレスゆうらく館：「つどいの間」の集い

三又地区の旧ミニデイ利用者8名の方々が毎週木曜日に来館し、会話や入浴を楽しんでいます。連絡係を決めて水曜日までに出席をとりまとめ、行き帰りはデマンドタクシーを利用し、昼食は税込み500円の弁当を注文しています。（入浴代別途）

新型コロナウイルス感染症のこともあり、4月早々には自らの判断で来館を自粛されておりましたがその後の緊急事態宣言の解除やゆうらく館自体の休憩所の利用停止の解除に合わせて6月4日から集いを再開しました。

参加者の皆さんからは「住む地区は同じですが一堂に会するのは本当に久しぶりです。」

「来館しない間は地区内で会館等で特段集まるといこともなく、畑仕事をして過ごしていました。」

「出かけて来るところに刺激があります。」とおっしゃっておいりました。

毎回の手指消毒や検温の必要があり窮屈なことが増えてきましたが、それをも上回る仲間同士の大切な日常をこれからも大切にしてください。

【支えあいたい事務局】



さんない生活支えあいたいではより多くの「集い」の事例を探しています。2～3人ほどで時折立ち話をしている、散歩をしているなど小さなことでも大歓迎です。ぜひ下記連絡先へ情報をお寄せください！！

連絡先 さんない生活支えあいたい事務局（山内福祉センター） 53-3009
山内地域局 市民サービス課 53-2933